



『からすのパンやさん』

加古里子 文／絵
偕成社 1973年

いっぱい。

黄色いすっきりとした表紙。「かこさとし おはなしのほん」シリーズ10冊が並びました。「つづきのおはなし」シリーズ10冊が続きます。かこさとしコーナーに卒園記念品として新たに20冊が加わり、複数あるものを除いても50冊にとどく大きなコーナーになりました。本棚にずらりと並んでいる割には目立ちません。きれいに収まり過ぎたのかもしれない。

みんなに手にとってほしい絵本を紹介してきました。今回も幼稚園にあってあたりまえの本、沢山の人が読んできた作品を紹介します。

加古里子さんは作者・監修者としてビックリするほど沢山の本を作ってくれました。1959年に最初の作品を出してから「だるまちゃん と てんぐちゃん」などのお話の本、「海」などの科学絵本、一般書まで700点を超える作品を残して2018年に92才で亡くなるまで生涯現役、遺作になった「みずとはなんじゃ」は2018年11月の発行です。プロフィールには童話作家・児童文化研究者に加えて工学博士とも。何者だったんだろう……。こんなにいっぱい……。

「からすのパンやさん」を久しぶりに開いてそのおもしろさに改めて驚きました。からすのパンや夫婦に4羽の子どもが与えられたのは良かったのですが、そのお世話（おしめをかえるのは当然としても、おっぱいをのませる？）が大変で、パン作りには支障が出る、店のかたむく、生活は困窮する。でも大丈夫。この窮状はみんなの誤解(?)からチャンスに変わります。画面いっぱいに84個ものパンが描かれて、数え切れないからすのお客さんたちが殺到するから安心して。

生きていることは面白い、いろいろな出会いは人生を豊かにしてくれるということを思いながらニヤリと本を閉じました。

4羽の子どもたちの成長した姿には続きのシリーズで会えますよ。嬉しいです。



「からすのおかしやさん」 「からすのやおやさん」

「からすのてんぷらやさん」 「からすのそばやさん」をどうぞ。

2021年 6月24日 梅崎啓子